

「大祭司の祈り(2)」

ヨハ17:6~19

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①ヨハ17章 恐らく、ゲツセマネの園の近辺での祈りであろう。
- ②イエスの働きは、預言者から祭司に移行した。
- ③これは、大祭司の祈りである。

*聖書に記された最高の祈りである。

*イエスの心の中を覗くことができる祈りである。

*世界観の変更を迫る祈りである。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

§151 キリストの執りなしの祈り

2. アウトライン

- (1) 自分自身のための祈り(1~5節)
- (2) 使徒たちのための祈り(6~19節)
 - ①使徒たちとの関係(6~8節)
 - ②使徒たちの守りを願う祈り(9~16節)
 - ③使徒たちの聖めを願う祈り(17~19節)
- (3) すべての信者のための祈り(20~26節)

3. 結論:

- (1) 弟子たちのためのイエスの祈り
- (2) 弟子たちによって栄光を受けるイエス

大祭司の祈りから、霊的教訓を学ぶ

I. 使徒たちとの関係(6~8節)

1. 6節

Joh 17:6 わたしは、あなたが世から取り出してわたしに下さった人々に、あなたの御名を明らかにしました。彼らはあなたのものであって、あなたは彼らをわたしに下さいました。彼らはあなたのみことばを守りました。

(1) この小さな群れ(11人の使徒集団)は、父から子に与えられたものである。

①彼らは、世から取り出された(選び出された)。

②ヨハ17章には、「世」という言葉が18回も出て来る。

*「世」とは、神に敵対する勢力、システムのことである。

③彼らは、父の選びによってこの世(不信仰な人類全体)から取り出された。

④父は彼らの子に贈り物として与えた。

⑤ヨハ6:37

「父がわたしにお与えになる者はみな、わたしのところに来ます。そしてわたしのところに来る者を、わたしは決して捨てません」

(2) 子は彼らに、父の御名を明らかにした(御名を現した)。

①御名とは、父のご人格、属性、特徴などである。

②イエスは、自分を見た者は父を見たと言われた。

③これは、イエスの神性宣言である。

(3) 彼らは、父のみことばを守った。

①イエスは、彼らをほめておられる。

②彼らは、イエスが語る父のことばに応答した。

③彼らは完ぺきではなかったが、献身の姿勢は正しかった。

(例話) 高校時代の代数: 回答は間違っているが論理がよければ評価される。

④過去の失敗や、これから起ころうとしている裏切りへの言及は、一切ない。

2. 7~8節

Joh 17:7 いま彼らは、あなたがわたしに下されたものはみな、あなたから出ていることを知っています。

Joh 17:8 それは、あなたがわたしに下されたみことばを、わたしが彼らに与えたからです。彼らはそれを受け入れ、わたしがあなたから出て来たことを確かに知り、また、あなたがわたしを遣わされたことを信じました。

(1) 子は父を完ぺきに啓示した。

①子は父のことばを彼らに伝えた。

(2) 彼らは、その啓示に応答した。

①父と子がひとつであることを信じた。

*ユダヤ的には、イエスが神であることを信じたということ。

②子が父から派遣されていることを信じた。

*イエスは完ぺきな【主】のしもべであることを信じたということ。

(3) 以上のことを前提に、イエスは弟子たちのために大祭司として祈られた。

II. 使徒たちの守りを願う祈り(9~16節)

1. 9~10節

Joh 17:9 わたしは彼らのためにお願いします。世のためにではなく、あなたがわたしに下さった者たちのためにです。なぜなら彼らはあなたのものだからです。

Joh 17:10 わたしのもはみなあなたのもの、あなたのものはわたしのものです。そして、わたしは彼らによって栄光を受けました。

(1) これは、11人のための祈りである。

①適用としては、すべての信者のための祈りとも言える。

②これは、世のための祈りではない。

*世は不信仰であり、その状態に保たれる必要はないのである。

③イエスが世のために祈ったことがないという意味ではない。

*事実、イエスは十字架上で世のために祈られた。

④イエスは大祭司として、11人を代表して御座の前で祈っている。

(2) 子のもは父のもの、父のもは子のものである。

①これは、子と父の親密な関係を示している。

②子と父は、同じ権威を有する神である。

*人は神に向かって、「わたしのもはみなあなたのもの」と言える。

*しかし、「あなたのものはわたしのものです」とは言えない。

(3) 「わたしは彼らによって栄光を受けました」

①これは、不完全な弟子たちにとって大いなる励ましと慰めである。

2. 11節

Joh 17:11 わたしはもう世にいません。彼らは世にいますが、わたしはあなたのみもとにまいります。聖なる父。あなたがわたしに下さっているあなたの御名の中に、彼らを保ってください。それはわたしたちと同様に、彼らが一つとなるためです。

(1) 状況が大きく変化しようとしているので、この祈りが必要となる。

①イエスは世を去り、父のみもとに行く。

②弟子たちは、世に残される。

③イエスに向けられていた「世からの憎しみ」は、弟子たちに向けられる。

④弟子たちを守る役割は、父に委ねられる。

(2) 御名の中に保つ。

①父は、聖なる父であり、罪に汚れた被造世界からは分離している。

*父は、無限に高いところにおられる。

②イエスを信じた弟子たちは、聖なる者とされている(世からの分離)。

③「御名の中に保つ」とは、父ご自身の守りを意味する。

(3) その目的は、彼らが一つとなるためである。

①彼らの性質や目的がイエスに似たものとなる。

②父と子が一つであることが、そのモデルとなる。

3. 12節

Joh 17:12 わたしは彼らといっしょにいたとき、あなたがわたしに下さっている御名の中に彼らを保ち、また守りました。彼らのうちだれも滅びた者はなく、ただ滅びの子が滅びました。それは、聖書が成就するためです。

(1) イエスは、良き羊飼いとて彼らを守った。

①これは、イエスの地上生涯への言及である。

(2) 唯一の例外は、イスカリオテのユダである。

①彼は、滅びの子である。

②ユダは羊の一員ではなかった。最後に、それが明らかになった。

③彼はイエスを売り渡すことで、知らない内にサタンの手先となった。

④神の主権は、人間の悪行の上にも及ぶ。

⑤ユダの裏切りは、詩41:9の成就である。

「私が信頼し、私のパンを食べた親しい友までが、私にそむいて、かかとを上げた」

4. 13～14節

Joh 17:13 わたしは今みもとにまいります。わたしは彼らの中でわたしの喜びが全うされるために、世にあってこれらのことを話しているのです。

Joh 17:14 わたしは彼らにあなたのみことばを与えました。しかし、世は彼らを憎みました。わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものでないからです。

(1) イエスが励ましのことばを語っている理由

①イエスが死んだあと、弟子たちはイエスのことばを思い出すようになる。

②それによって、イエスの喜びをフルに味わうようになる。

③イエスの喜びとは、悪に打ち勝ち、永遠のいのちをもたらしたということ。

(2) 父の守りが必要な理由

①イエスは父のことばを彼らに与え、彼らはイエスのようになった。

②イエスが憎まれたように、彼らも世から憎まれる。

5. 15～16節

Joh 17:15 彼らをこの世から取り去ってくださるようというのではなく、悪い者から守ってくださるようお願いします。

Joh 17:16 わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではありません。

(1) 神の計画は、彼らを世から取り去ることではない。

①むしろ、世にあって彼らを悪い者から守ることである。

②彼らには、この世にあって果たすべき使命が与えられていた。

(2) 悪い者とは、サタンのことである。

①サタンは、この世の頭である。

②信者を破壊するためならなんでもする。

③しかし、サタンの意図が成就することはない。

④神は、ご自身の民を守られる。

(3) イエスがこの世に属していないように、弟子たちもこの世のものではない。

①コロ1:13

「神は、私たちが暗やみの圧制から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました」

②この世からの誘惑を受けたとき、この聖句を思い出すべきである。

III. 使徒たちの聖めを願う祈り (17～19節)

1. 17節

Joh 17:17 真理によって彼らを聖め別ってください。あなたのみことばは真理です。

(1) 聖めとは

①この世からの分離である。

*この世の価値観、罪、目的からの分離である。

②神の働きのための分離である。

(2) 聖めの方法

- ①真理のみことばである。
- ②神のことばを学ぶなら、その人は聖め別たれる。
 - *心と知性が変化する。
 - *内面の変化は、生き方の変化をもたらす。
- ③この原則は、現代の信者にも適用される。
 - *みことばの学びによって、この世から別たれ、神の働きをするようになる。
 - *「聖書研究から日本の霊的覚醒(目覚め)が」

2. 18節

Joh 17:18 あなたがわたしを世に遣わされたように、わたしも彼らを世に遣わしました。

- (1) 父が子を世に遣わした。
 - ①子の使命は、父を啓示することである。
 - ②イエスは、すべての信者のモデルである。

- (2) イエスは弟子たちを世に遣わした。
 - ①弟子たちには使命がある。
 - ②父を知らしめることが、弟子たちの使命である。
 - ③これは、イエスの大宣教命令と言ってもよい。

3. 19節

Joh 17:19 わたしは、彼らのため、わたし自身を聖め別ちます。彼ら自身も真理によって聖め別たれるためです。

- (1) 「わたしは、彼らのため、わたし自身を聖め別ちます」とはどういう意味か。
 - ①イエスの性質は、聖めを必要としていない。
 - ②このことばは、十字架の死への献身を意味している。

- (2) 真理は弟子たちを聖め別つ。
 - ①イエスの贖いの死を信じる者は、この世から聖め別たれる。

結論

1. 弟子たちのためのイエスの祈り

(1) 弟子たちを選ぶ前(ルカ6:12)

Luk 6:12 このころ、イエスは祈るために山に行き、神に祈りながら夜を明かされた。

(2) 公生涯の終わり（ルカ 22：32）

「しかし、わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい」

(3) 地上を去る前（ヨハ 17：6～19）

(4) 天上において

①ロマ 8：34

「罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしていてくださるのです」

②へブ 7：25

「したがって、ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことができになります。キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです」

2. 弟子たちによって栄光を受けるイエス

(1) 旧約時代における神の栄光

- ①幕屋、神殿の至聖所にシャカイナグローリーが現れた。
- ②神がご自身の民の中に住み、栄光を表された。

(2) 福音書の時代

- ①イエスの内にシャカイナグローリーが現れた。
- ②ヨハ 1：14

「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた」

- ③弟子たちの信仰と生き方は、イエスのご性質の現れとなった。

*栄光とは、神のご臨在であり、ご性質である。

- ④それゆえイエスは、弟子たちによって栄光と受けたと言われたのである。

*これは、不完全な弟子たちにとって大いなる励ましと慰めである。

(3) 教会時代

- ①聖霊が御子の栄光を表す。

②ヨハ16：14

「御霊はわたしの栄光を現します。わたしのものを受けて、あなたがたに知らせるからです」

③信者も御子の栄光を表す。

④エペ1：12

「それは、前からキリストに望みを置いていた私たちが、神の栄光をほめたたえるためです」（新改訳）

「これ夙（はや）くよりキリストに希望（のぞみ）を置（お）きし我（われ）らが、神（かみ）の栄光（えいくわう）の譽（ほまれ）とならん爲（ため）なり」（文語訳）